

幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 六 月

日 かげ

子ぎもには一ぱいの日なたに共、静かな日かげも與へてやりたい。

夏の日が強くなるに、木の葉が繁つて涼しいかげをつくつて呉れる。自然はなんこいふこまやかな心づかひに、やさしいいたわりに行き届いてゐるこであらう。勵まし共々にいたわりを忘れない。引き立てる共々に憩はせるこを忘れない。

日盛りの中を馳けまわつて、その廣い明い光線に、ぐんぐん活氣をあほり立てられてゐる子ぎもが、ふみ、涼しい木かげに来て、につこりこ、なごやかな顔を見せるこがある。

日なたがなければ子ぎもは生きない。しかしまた、日なたばかりでも子ぎもは生きられない。日なたに生き、日かげにかばはれて生きる子ぎもではある。

私たちが、子ぎものために、一ぱいの日なたになる共、よき日かげにもなつてやりたいものだ。